

## 令和3年度 第2回津山市行財政改革推進委員会議事概要

日時：令和4年3月24日（木）10:30～12:02	場所：津山市役所2階 大会議室
<b>出席者</b> 〈委員〉 平野正樹会長、松田欣也副会長、石本恵二委員、小西治之委員、小山京子委員、高山康晴委員、多田憲一郎委員、松本静江委員、松本美幸委員、南大悟委員 〈津山市〉 谷口市長、山田副市長、有本教育長、部長級職員、事務局職員 〈傍聴者〉 4名	
<b>1 開会</b>	
<b>2 市長あいさつ</b>	
<b>3 会長あいさつ</b>	
<b>4 委員委嘱</b>	
<b>5 協議事項</b>	
<b>（1）津山市行財政改革運営指針令和4年度実行計画（案）について</b>	
<b>津山市：</b> 津山市行財政改革運営指針令和4年度実行計画案について説明。	
<b>委員：</b> 新型コロナウイルス感染症の感染拡大が一向に収まる気配がない。市が行っているコロナ対策事業の状況は。	
<b>津山市：</b> 令和4年度当初予算に新型コロナウイルス感染症対策事業として、庁舎等の感染防止に係る経費のほか、ワクチン接種の協力医療機関等に対する支援事業やPCR等費用助成事業、また国の補助事業として、新型コロナワクチン接種事業、保育所や幼稚園等の感染対策事業を計上している。	
<b>委員：</b> 感染者数が減少傾向となっておらず、地域の方々は悲鳴を上げている。簡易検査の積極的な活用など、対策の充実と迅速な対応を求めている。	
<b>市長：</b> 第6波到来で感染者数は急増しており、感染対策には一貫して気を引き締めて取り組んでいる。これまで様々な対策事業を講じているが、まずは行政検査体制の充実のため、国や県と連携し実行力のある取組を進めたい。同時に経済対策にも取り組み、地域内循環の対策として独自施策も進めている。今後も皆様の声をお聞きしながら、感染症の拡大防止と収束に向けた取組を進めたい。	
<b>教育長：</b> 学校現場でも消毒材の設置や換気の徹底、子供たちへの感染対策としてマスクの着用、手指消毒、三密の回避といった取組を徹底している。検査体制については、医師会等の見解を踏まえた対応を行いたい。	
<b>委員：</b> 地域はこれまで自助、共助に関する取組を懸命に進めてきた。しっかりとした対策をお願いしたい。	
<b>委員：</b> 歳出ばかりを縮めれば経済活動や地域の萎縮につながることから、歳入増の取組に期待して	

いるところだ。令和4年度の歳入増に関する取組でいえば、制度が改められ企業側にメリットのある企業版ふるさと納税の取組を強化してはどうか。市が連携している市外の事業者等への働きかけを積極的にお願いしたい。

様々な計画の中に民間活力の導入との文言を目にするが、行政でなければできないこともある。例を上げれば都市計画だ。まちの付加価値が上がることで税収増にも繋がっていく、そのような考え方も織り込んでほしい。直接的な行財政改革の取組ではないかもしれないが、広い視点での議論をお願いしたい。

**会 長：** 広い視点で見れば、まちづくりも含めた前向きな事務事業の展開によって、外から人を呼び込み、お金が集まり、最終的に税収増に繋がる循環型が望ましい。前向きな取組に結びつく計画や考え方はあるか。

**津山市：** 市では「まち・ひと・しごと総合戦略」を策定し、将来人口の目標を掲げて取組を進めている。人口増によって財政的なメリットにも繋がり、その財源を活用しながら計画を着実に実行していきたい。

**市 長：** 将来に向けた取組をとのご意見はまさに同感だ。前任期では、基金残高の今後の推移から減量型の改革を先行せざるを得なかった。引き続き減量型の取組も進めていくが、活性型の行革、未来への投資に繋がる取組をしっかりとやっていきたい。

**委 員：** 改革に対する基本的な理念に共感している。市役所自体が経営体としてどのように収入増を目指すか、要は税収増だ。税収をふやすためのポイントは、地域経済の主役である地場企業をいかにして元気にしていくか、その点で、企業版ふるさと納税の取組実績は喜ばしい報告だ。

その理由を分析してみたが、産業支援センターの効果が大きいのではないかと。地道な活動の積み重ねが市に対する信頼感を生み、企業版ふるさと納税の増加に、ひいては産業支援センターの活動が評価されている証だと捉えている。さらに議論を深めると、地場企業がどんなことに困っているか、そしてその障害を取り除くために自治体でなければできないことは何か、その取組の積み重ねが市との一体感を作り出し、企業は実績を上げ、その果実として税収が入ってくる、このような循環をつくり出すことが大事だ。産業支援センターの取組と行革とは直接的な関係はないが、行革の枠組に入れて産業支援センターをバックアップし、地場企業との繋がりを強めていくことで、税収増に繋がる。ぜひ総合的な施策を考えていただきたい。

歳出の取組では、ファシリティマネジメントの取組が大事で、公共施設をどのように整理、統合をしていくか。年間2,700万円の削減目標を掲げているが、地域には地域由来の様々な課題もあることから、達成にはハードルが高いものとする。評価基準の設定に当たり、ファシリティマネジメントの特性に合ったものに再検討してもよいのでは。

**津山市：** 産業支援センターでは、地域産業の活性化を目指し、地場産品の商品開発とPRを進めている。地域産品のよさをしっかりと発信し、取組の効果を高めていきたい。ひいては税収増にも繋げていきたい。

企業版ふるさと納税の取組では、市内立地企業の本社に働きかけた効果もあり、今年度の実績見込となった。今後もセンターを通じたアプローチを進め、企業版ふるさと納税の確保にも努めていきたい。

**津山市：** 将来の安定的な市政運営を進めるためには、今後 25 年間で維持管理費総額の 30%削減が必要であったことから、明瞭な基準とするため単年度による目標設定としていた。大幅な削減は、施設を利用いただく住民の皆さんに対しても、また住民サービスを提供していく観点からも課題が多いのも事実だ。ご指摘の点を踏まえて示し方を再検討してみたい。

**委員：** 前回の会議後、戸島の産業・流通センターも久米産業団地も立地率 90%に至った。引き続き取組をお願いしたい。また、作陽高校の移転を受けて、市長には新しい高校や大学の誘致にも取り組んでもらいたい。さらには、民間事業者が進めている地方創生プロジェクトに対しても積極的な連携をお願いしたい。

**市長：** 企業誘致については、新たな企業に注目していただくためにも、引き続きしっかり取り組みたい。学校誘致は少子化でなかなか難しい状況もあるが、今年度、高等教育機関連携室を設置してこの課題にも取り組んでいる。民間事業者との取組にも市として積極的に関わってきたい

**委員：** 市役所の 1 階が明るくなり、市民としても親しみやすくなった。彩りのある雰囲気は素敵なことだ。

私も気になったのは、ファシリティマネジメントの推進に対する評価基準だ。累計効果額の実績は、長い年月をかけ、論議を重ね、市民の意見を聞きながら進めてきたガラスハウスの指定管理料の削減によるものだ。評価指標を金額で示すことに難しい面はあるが、これまでの取組を踏まえた考え方も必要ではないか。また、今後は運営者と津山市がいかに協力してガラスハウスの魅力を高めていくか。ガラスハウスは津山の宝だ。市民の憩いの場として、集客力が高まる方向性に期待したい。ガラスハウスの今後の予定についてお聞きしたい。

**津山市：** 現在改修中で、5 月から総合運動施設として運営予定と事業者から聞いている。子供や大人はもとより、県外の方等の合宿なども誘致したいとの意向も聞く。当然ながら市も様々な部門と連携し、公園全体も含めた活性化に繋がるようバックアップしたい。

**委員：** 公共施設への民間活力導入により、企業の収益面だけではなく地域の魅力向上に繋がっている取組もあるので、この点をぜひ進めていただきたい。

財政構造改革の取組について、事務事業の見直し等に繋がる予算編成で何かやり方を変えたことはないか。

**津山市：** 以前のシーリング方式から、現在は 1 件査定による予算編成を行っている。1 件査定の効果としては、予算や事業に対する費用対効果の視点や考え方を職員がしっかり持ち、予算要求ができているものと認識している。

**委員：** 市も私どもの業界でもコロナ禍で大変な状況だ。コロナ禍による規制や自粛で何もしないことに慣れてしまい、現状をいかに維持していくか、そのことしか考えられなくなっている。いたし方ない面もあるが、いつかはそこから抜け出さなければいけない。

他方でコロナ禍になってから驚くことがある。それは若い創業者が増えていることだ。私たちは景気のよい時代を経験していることから、次なる一步を踏み出せずにいるのかもしれないが、若い人たちは柔軟な発想で物事を捉えていて、とても大切なことだと感じている。市にも

若い人たちがもっと伸びやかに、柔軟な発想で活躍できる場を作っていただきたい。

**委員：** この2年間はコロナの影響による市からの要請で地域活動がほとんどできなかった。少しでも津山市がよくなる、住民が楽しくて、安心して暮らせるまちづくりを進めていただきたい。

**会長：** 各委員には行財政改革に対し、共通する考え方を持っていただいていると感じた。

行革の基本的な考え方として、前向きな取組が浸透しつつある。本日の会議ではコロナ対策に関しても意見が出されたが、今後はウィズコロナの社会の中で、様々な行政ニーズを把握する必要がある。結局は行政でニーズを把握し、地道に取り組んでいく分野は何か、中長期でやっていく分野は何かということを常に考える必要がある。津山の住民がこの地域で住んでよかったと思えるまちづくりに励んでいただきたい。

津山市のポテンシャルや潜在能力は高いものと私は評価している。当委員会では引き続き前向きな議論をお願いしたい。

## 6 その他

## 7 閉会